

第40回大会

中国・四国・九州地区

# 生涯教育実践研究交流会



- 期 日 令和5年5月20日(土)～21日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会  
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第40回大会実行委員会  
福岡県立社会教育総合センター

## テーマ 地域のウェルビーイングの実現 ～社会教育・生涯学習が中核～

令和5年は、社会教育・生涯学習の仲間にとって、『「コロナ禍」からの脱却!交流活動の再生!』です。昨年から今年にかけて新型コロナに関する規制が徐々に緩和され、5月8日には、今の「2類相当」から季節性インフルエンザ並みの「5類」に移行することが決定しました。生活がコロナ禍以前に戻ることが期待されているのです。

まさにこのタイミングで、記念すべき第40回「中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会（以下「交流会」）が開催されることは、社会教育が大切にしてきた「集い・学び・つながり・行動する」という「活動の原点」を確認する場になると確信します。それは、3年ぶりに開催した第39回「交流会」で、中国・四国・九州地区という広域の地域から「人はなぜ集うのか」の原点が分かったからなのです。すなわち、人は、実践活動の友に「会いたい・認め合いたい・手応えを感じたい」、そして「つながり・認め合う仲間」を求めているのです。今大会も、学び・活動の仲間と「交流会」の原点を確認し合いたいです。

一方、令和5年3月、教育基本法に基づく「第4期教育振興基本計画」（令和5～9年度）の答申がなされました。注目は、今後の教育政策の総括的な基本方針として「①持続可能な社会の創り手の育成」、「②日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を挙げていることです。特に、ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態であると定義しています。それは「一人ひとりが幸せであるとともに社会全体も幸せでもある良い状態」と言えます。そして「欧米の価値観にとらわれず、日本ならではの考え方に立つべきだ」として、具体的な要素として幸福感、協働性、利他性、自己実現などを挙げています。

まさに、永年社会教育が日常生活を通して大事にしてきた、ご近所さんで「集い、学び、協力し、助け合い・励まし合い、いたわり合って」推進してきた「共同・連帯」の「地域づくり」そのものです。

今年は、コロナ禍前の28事例発表に戻しました。推薦いただいた各県実行委員会の皆さまに心から感謝申し上げます。

さらに、特別企画として「40回大会」を記念して、40回を振り返り、次なる「未来の必要」についての提言を試みます。特に、各県実行委員会の皆さまに登壇・提言いただき、みんなが創り上げる「交流会」に発展させたいです。参加者みんなで語り合しましょう。

本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに心より厚く感謝申し上げます。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 古市 勝也

## 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第40回大会 実行委員

平野 靖博（鳥取県）鳥取県教育委員会事務局社会教育課	三角 幸三（熊本県）CPDI 代表
原田 尚（島根県）島根県出雲市立灘分小学校	山平 敏夫（熊本県）熊本県教育庁市町村教育局社会教育課
澤江 健（島根県）島根県津和野町立木部小学校	岡田 正彦（大分県）国立大学法人 大分大学
吉岡 康行（広島県）広島県海田町立海田西小学校	竹内 一久（宮崎県）宮崎県諸塚村教育委員会
武原 智明（広島県）広島県立福山少年自然の家	河村 康秀（宮崎県）宮崎県都城市立志和池小学校
正留 律雄（広島県）広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター	伊藤 太（鹿児島県）前鹿児島県立青少年研修センター
東川 絵葉（岡山県）岡山県倉敷市立第四福田小学校	下屋敷由貴子（鹿児島県）かごしま県民大学中央センター
河本 潤（岡山県）独立行政法人国立青少年教育振興機構国立吉備青少年自然の家	鷓木 孝夫（鹿児島県）かごしま県民大学中央センター
赤田 博夫（山口県）前（公財）山口県人づくり財団 県民学習部	東原 辰巳（鹿児島県）薩摩川内市教育委員会 中央公民館
矢田部敏夫（山口県）山口県美祢市立美東中学校	大城喜江子（沖縄県）一般社団法人まちづくりうらそえ（浦添市立森の子児童センター）
坂井 孝吏（高知県）高知県安芸市立安芸中学校	矢野 勝也（福岡県）福岡県教育庁教育振興部社会教育課
濱崎 博志（高知県）NPO法人高知県生涯学習支援センター	森本 精造（福岡県）元飯塚市教育委員会
中尾 治司（愛媛県）独立行政法人国立青少年教育振興機構国立大洲青少年交流の家	井手 優二（福岡県）福岡県立社会教育総合センター
関 弘紹（佐賀県）前 佐賀県立生涯学習センター（アバンセ）	古市 勝也（福岡県）九州共立大学
鴻上 哲也（佐賀県）佐賀県伊万里市民図書館	正平 辰男（福岡県）飯塚市庄内生活体験学校
内川実佐子（佐賀県）特定非営利活動法人 空家・空地活用サポート SAGA	三浦清一郎（福岡県）生涯学習・社会システム研究者
深堀ゆみえ（長崎県）長崎県教育庁生涯学習課	紫園 来未（福岡県）オフィス しおん
棕本 博志（長崎県）長崎市立長浦小学校	山田 明（福岡県）九州共立大学
武次 寛（長崎県）長崎県社会教育支援 草社の会	大島 まな（福岡県）九州女子大学
田原 里恵（熊本県）熊本県教育庁市町村教育局社会教育課	

# Time Schedule **1st day 5.20 Sat.**

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00	13:30	16:10
受付	開会式	実践発表①	昼食	受付	実践発表②	
玄関ロビー	2F 講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		

16:30	17:00	18:00	20:00
移動休憩	<b>特別報告</b> <b>「幼老共生の社会教育戦略」</b> <b>愛知県扶桑町の市民聴講制度と福岡県飯塚市の熟年者マナビ塾</b> <b>～義務教育学校の市民開放～</b> 報告者 三浦 清一郎 (月刊生涯学習通信「風の便り」編集長) (2F 講堂) フリータイム	移動休憩	<b>第40回大会交流会</b> (2F 体育館)

## 第40回大会 交流会

■日時：1日目の夜 18:00～20:00 ■場所：2F 体育館

参加者、実践発表者、各県実行委員会の皆さまが一堂に会して、交流を深める場を設けています。以下の内容で実施します。御参加をお待ちしています。

食事、各都道府県の紹介、歓談(名刺交換)、おらがまちの名物自慢(特産品)オークション

また、オークションの売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、御了承ください。

# Time Schedule **2nd day 5.21 Sun.**

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	<b>特別企画</b> <b>【第1部】「教育こそ未来より先に動かなければならない」</b> 登壇者・聞き手 三浦 清一郎(月刊生涯学習通信「風の便り」編集長) 登壇者 森本 精造(元飯塚市教育委員会教育長) 古市 勝也(九州共立大学名誉教授) 大島 まな(九州女子大学教授) 聞き手 菊川 律子 氏(前放送大学副学長) <b>【第2部】「生涯教育実践研究交流会 40年を振り返って」</b> 登壇者 各県実行委員 総勢14名 聞き手 大島 まな(九州女子大学教授)	<b>総括閉会式</b>	昼食
	玄関ロビー	2F 講堂	

## わたしの まちの ポスター展

■日時：5月20日・21日 ■場所：2F 講堂

大会開催中、参加者の皆さんが携わられている「むらおこし」「まちづくり」「ひとづくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧ください。



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会／今井 博志 愛媛のおやじ井戸端会議  
吉丸みさ子 筑豊教育事務所 前児童生徒指導相談員

分科会の進め方 10:45~10:50

**1** 大良(だいら)の地域づくりの手法と課題 10:50~11:20  
～小学校廃校を目前にした新たな求心力の創出～

金嶽 栄作(佐賀県唐津市) 大良地域まちづくり会議事務局

小学校廃校を目前にした、公民館とまちづくり会議による新たな校区づくりの実践事例である。県立施設の「課題解決支援講座」を活用し「大良しあわせビジョン2030」を作成、その実現に向けた住民の語り合いで、次世代へつなぐ連携や新たな人材発掘を目指す。

手法として、「山都美文化と音楽フェスティバル」、「大良ふれあい食堂」、「ふみかん店」の出張公民館を実施し、地元小学校統廃合後の地域づくりの拠点「公民館」を目指している。

**2** 子どもたちに豊かな放課後の時間を! 11:25~11:55  
～飯塚市放課後児童クラブの取組～

井上 真一(福岡県飯塚市) 教育委員会教育部学校教育課 指導主事

飯塚市では、児童クラブの所管が福祉部局から学校教育課に移管されて6年が経過した。この組織再編で学校と児童クラブとの情報共有が加速し、児童を共に見守り育てる体制が定着してきた。

本市では、児童クラブにおいて、身につけてほしい力や提供するプログラム等のビジョンを明確にして活動することで、家庭教育を補完し地域社会全体で子どもを見守り育てていく体制が構築できると考え取組を進めている。

**3** 学校と地域をつなぐ地域教育プロデューサーの役割と活用 12:00~12:30

染田 麻弓子(愛媛県西予市) せいよ地域おこし協力隊 西予市地域教育プロデューサー

西予市は、地域おこし協力隊制度を活用して地域教育プロデューサーを配置し、小学生の放課後子ども教室のコーディネート、中学校の総合的な学習の時間のプロデュース、中学校の学校運営協議会の委員、高校生のまちづくり団体「N-ジオチャレ」の伴走支援等の活動をしている。

教育分野で、子どもたちのまちづくりへの参画を推進し、社会に開かれた教育課程を目指す学校と、地域とのつなぎ役としての地域おこし協力隊の活躍が注目である。



# 第2会場●2F 自由研修室

■司 会／内村 憲和 鹿児島県大崎町教育委員会社会教育課 課長補佐  
紫園 来未 福岡県 オフィスしおん 代表

分科会の進め方

10:45~10:50

## 1 地域の人が本気を出したらこうなった! ～未来を変える楽しいまちづくりの形～

10:50~11:20

村上 有希(福岡県田川郡香春町) 香春町役場まちづくり課地域つながり係  
宮原 絵理(福岡県田川郡香春町) 採銅所地域コミュニティ協議会 事務局長

香春町では、令和4年1月に新しく「採銅所地域コミュニティ協議会」を設立した。過疎化や高齢化が進む中、住民同士が課題を共有し、課題解決に向けた活動を開始したところであるが、活動早々楽しくユニークな活動が生まれ、地域の人を盛り上げてくれている。

「これからの地域はどうなっていくのか、今自分たちにできることは何なのか」ということを一人一人が考え、楽しい地域づくりを実践している。

## 2 大豆100粒運動の10年の成果と未来へのチャレンジ ～運動が繋がった縁で学校・地域・企業の輪に広がる～

11:25~11:55

池田 龍二(佐賀県佐賀市) 地域ビジネス創出事業コーディネーター

大豆100粒運動は、子どもたちが両手の掌に載る100粒の大豆を撒き、育て、観察し、収穫後に農の恵みを味わい、食を学ぶ取り組みである。10年間継続した企業発信のこの運動が学校、地域をつなぎ、さらに学校・地域・企業の輪に広がっている。

活動に企業の手法を持ち込み、佐賀清和高校の「まなざし講座」、佐賀県産物品のPR動画等の作成に広がった。注目は、10年前にこの「実践研究交流会」で発表し、さらに進化していることである。

## 2 諸塚アートプロジェクトによる共創 ～子どものチカラでミライを創る～

12:00~12:30

森 佑介(宮城県東白杵郡諸塚村) 一般社団法人ハチハチ 代表理事

山村という制約的な条件やコロナ禍という現状を克服し、諸塚村での多彩な子どものアート体験活動の実施及び東京アートカフェと連携した作品展示会・交流イベントなどの実践である。

成果は、「オンラインを活用した魅力的なアート体験の提供」「村と都市の交流で、村の発信・接点の場の創出、多彩な関係人口の創出」が挙げられる。注目は「村内企業、地域住民による実行員会、教育委員会とパートナーシップを結ぶカフェ（東京）」との相互連携で実現していることである。



# 第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／関 弘紹 前 佐賀県立生涯学習センター（アバンセ）  
山本 聡子 北九州市立生涯学習総合センター 社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

**1** 地域でつながる未来への子育て支援  
～子育てサロン ちくちくワンダーランドの活動を通して～ 10:50~11:20

十時 恵美(福岡県直方市) 直方市教育委員会子ども育成課幼児教育推進係  
森田 保恵(福岡県直方市) 福岡県立筑豊高等学校 生活デザイン科主任

直方市では、乳幼児を育てる保護者や出産を控えた妊婦さんを対象に、子育てに関する情報交換や悩みごとの相談、親子の交流の場となる子育てサロン『ちくちくワンダーランド』を県立高校で開設している。

この活動を通して、親子を中心にした地域、学校、行政がつながる仕組み作りを展開している。

**2** カタろうよ!コミュニティ・スクール 地域学校協働活動 11:25~11:55

池端 幸徳(熊本県熊本市) 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育主事

熊本県が力を入れている「子供たちの学びを地域の力でサポートする」「学校を核とした地域づくり」を行う地域学校協働活動。令和4年度(2022年度)に、初めて県内の氷川町と天草市を先進的地域として指定した。

氷川町では、「ふるさと学習」「防災教室プログラム」を実施。参加したのは小中学生・区長・消防団員・民生委員・児童委員・PTA地区役員など、まさに地域総がかりで取り組んだ。

天草市の御所浦小学校では、「子供たちの企画を実現するために」と地域の方が積極的に協力し、地域の一大イベントとなっているイルミネーションイベントを成功させた。両市町とも、学校だけではできない活動を展開中。

**3** タッグで取り組む青少年の健全育成  
～公民館と青少年育成アドバイザーの連携について～ 12:00~12:30

河本 真志(鳥取県八頭郡若桜町) 若桜町教育委員会事務局 主任

青少年アドバイザーという組織が若桜公民館と連携し活動して成果をあげている。「若桜ぼうけんマップを作ろう」では、3つの班に分かれて町内7つの地域を巡って記録を取り、終わりには発表をして冒険マップを完成させた。

「みんなでソロキャンプ」では、休校となった屋内運動場を利用して、段ボールで一人用テントを作って一人寝体験をした。ソロキャンプは、総合型地域スポーツクラブとの共催で成果をあげた。公募には学校がチラシ配布などで協力している。



# 第4会場●4F 大研修室

■司 会／山本めぐみ 北九州市鞘ヶ谷市民センター 館長  
谷口由美子 福岡県大刀洗町老人会 会長

分科会の進め方

10:45~10:50

**1** 「だいすけさん、にわとりをさばくキャンプがしたいんですけど…」  
～「にわとりキャンプ」を通して見る子どもとスタッフの育つ場づくり～ 10:50~11:20

大久保大助(福岡県北九州市) 特定非営利活動法人KID's work 代表理事

特定非営利活動法人KID's workは、体験活動を通じて子どもたちの「考える」「決める」「行動する」3つの力を育むことを目的に取り組みを進めている。

2022年に実施した「にわとりキャンプ」。大学生スタッフの思いから始まったこの取組について、活動プログラムとして実施するまでの企画の経緯やプログラムを実施して変容していく子どもたちの様子を報告する。また、活動を通して考えた社会教育の場づくりについて感じたことをお伝えしたいと考えている。

**2** 市民生活を豊かにする場としての動物園  
～動物福祉、ワンヘルス、ワンウェルフェア～ 11:25~11:55

椎原 春一(福岡県大牟田市) 大牟田市動物園 園長

大牟田市動物園のコンセプトは「動物福祉を伝える動物園」である。動物福祉とは、痛み・苦しみ・恐怖・喜び等の感性を持つ個々の動物の心身と環境の状態である。人を含めた動物の生活の質の向上を図り、個々の生活者のウェルビーイングを実現する。

生活の質は環境の質に依存すること、環境としての生態系の健全な保全、共生について考える機会を提供している。また、広報を生涯教育の重要な要素と考えて展開している。

**3** 多様な教育の担い手とつながる「子ども・地域教育フォーラム」の挑戦  
～KEW(Kumamoto Education Week)の舞台を活用して～ 12:00~12:30

小原 恵二(熊本県熊本市) 熊本市教育委員会事務局地域教育推進課 課長補佐

KEWは熊本市教育委員会が主催するオンラインを中心としたイベントや講座である。令和元年、熊本市教委青少年教育課に「地域教育班」を設置、令和2年度から「子ども・地域教育フォーラム」をKEWに合わせて開催してきた。

目的は多様な教育の担い手が一堂に会し、地域教育力向上の連携・協力のきっかけを作り、学校外の教育を求める子ども・保護者と多様な教育の担い手が繋がることにより、子どもの多様な学びを支援することである。1年目：4番組 2,623回、2年目：11番組 6,353回、3年目：9番組 2,113回の視聴があった。市民とともにつくるイベントへの発展・進化が継続のカギとなっている。

1st day  
PM

# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会／吉岡 康行 広島県海田町立海田西小学校 校長  
堀 明美 山口県宇部市立万倉小学校 前校長

分科会の進め方

13:30~13:35

## 1 廃校を拠点とした、ふるさと自然体験の場の創造

13:35~14:05

浦田 愛(広島県三次市) 特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう副理事長 ふるさと自然体験塾長

2003年に廃校となった校舎を都市農村交流宿泊施設として活用し、「ふるさと自然体験塾」を開始。自然豊かで昔からの暮らしが残る「ふるさと」の教育力、癒しの力、農村暮らしの知恵や農村景観などを活かし、主に親子や子どもを対象に失われつつある自然と寄り添った暮らしの実体験や地域との交流活動を行う。

具体的には年間を通した体験シリーズ、Aおいしい楽校(食農体験)、B森づくりカフェ(里山体験)、7泊8日の子どもキャンプなどのほか、利用団体向けのふるさと体験プログラムを提供している。校舎は指定管理施設、活動フィールドは地域全体、また周辺の休耕田や荒れた山林を参加型で再生活用。指導者は地域住民や有資格者。地域住民と交流者と共に、100年後の子どもたちに「ふるさと」をつなぎたい。

## 2 廃校小学校の活用(芸術文化交流施設の誕生)

14:10~14:40

白岩雄一郎(鳥取県八頭郡八頭町) 八頭町教育委員会事務局社会教育課 係長

八頭町は、2005(平成17)年3月、郡家(こおげ)・船岡・八東の3町が合併して誕生した。2017(平成29)年3月、安部小学校が閉校し、2020(令和2)年、校舎の改修計画が始まった。2022(令和4)年11月、「八頭町文化芸術交流プラザ あーとふる八頭」としてオープン。1階には地区公民館が入り、地域交流の場として使用。2階には版画家橋本興家氏と洋画家山本虎之助氏の作品展示、3階にはアマチュア天文家の本田実氏の資料記念館と発掘出土品展示室を設けている。

ティータイム

14:40~15:05

## 3 生涯学習発信基地 野老山(ところやま)おとなの学校

15:05~15:35

山中千枝子(高知県高岡郡越知町) 千斗枝グローバル教育研究所代表 野老山おとなの学校 校長

2002(平成14)年、越知町立野老山小学校長として着任して始めた「野老山おとなの学校」。おとなと子どもは共に居てこそ自然であると信じて、週1回の定例授業(国語、音楽、数学、体育、技術家庭科)から始めた。各種のイベントにも活動の手を伸ばした。

2004(平成16)年、休校になってしまう野老山小学校だが、「野老山おとなの学校」は、社会教育学校として生き残った。2013(平成25)年には野老山公民館としてスタートした。活動の中心は、全住民140名。常時参加する「野老山おとなの学校」のメンバーは20~30人である。

## 4 町ぐるみ「和木学園」構想 ~生涯学習を土台とした町づくり~

15:40~16:10

重岡 良典(山口県玖珂郡和木町) 和木町教育委員会 教育長

平成27年度の地方創生加速化交付金を活用し、和木町全域を学び舎と位置付けた「和木学園構想」の実践である。町内在住・勤務者はみんな「和木学園生」であり、「みんなが生徒 みんなが先生」の理念のもと、ともに学び合い、町を活性化することを目指している。

学校教育から社会教育まで、町民の学び・体験等は全て「和木学園構想」である。企画から実施までみんなできり上げることが特徴であり、参加者になり、企画者になり、先生になる企画形態が注目のポイントである。



1st day  
PM

## 第2会場●2F 自由研修室

■司 会／橋津 健一 島根県立東部社会教育研修センター 調整監  
矢田部敏夫 山口県美祢市立美東中学校 校長

分科会の進め方

13:30~13:35

### 1 子育て支援講座「ほのぼのくらぶ」の25年 ～過去・現在・そして未来へ～

13:35~14:05

布施 美里(島根県出雲市) 島根県出雲市荒木コミュニティセンター マネジャー

島根県出雲市内にコミュニティセンターが43ある。その一つ荒木コミュニティセンターが主催する子育て支援講座の報告である。出雲市のコミュニティセンターは、公民館の機能を担い、自治会活動支援にも取り組んでいる。25年続けた主催事業「ほのぼのくらぶ」と昨年からはじめた「あらしきプレイランド」の成果を紹介する。前者は開講時から参加者が代表者を決め、年間カリキュラムを作って学ぶという自発的な講座である。参加者の減少など困難に直面しながらも前進している。

### 2 山口県長門市家庭教育支援チーム「ふあみ」の活動と成果

14:10~14:40

久保田啓子(山口県長門市) 長門市家庭教育支援チーム「ふあみ」 代表

家庭教育アドバイザー養成講座(山口県教育委員会主催)を受講した9人で構成するボランティアグループの活動である。2014(平成26)年に取組を始めた。市内各小学校の就学時健康診断の機会に、「子育て交流会」を開いて人間関係のきっかけを作る。

子どもの靴の正しい選び方やはき方、子どもの生活習慣について語り合いながら、入学後も相談し合える関係を作っていく。中高生と乳幼児との交流をサポートするなど活動のテーマは広がっている。続く喜びもあれば、続く苦労もある。経費の公的な支援は受けない。無償の活動は既に10年近く続く。優れた活動に文部科学大臣の表彰を受けた。

ティータイム

14:40~15:05

### 3 夏休みは「早寝・早起き・ラジオ体操・朝ごはん」 ～40年続く、今日も元気なお話おばちゃん～

15:05~15:35

木村 泰代(佐賀県佐賀市) 佐賀市諸富地区民生委員・児童委員

昭和58年7月21日から40年間、夏休みのラジオ体操後、手づくり紙芝居や絵本の読み聞かせ、折り紙遊びを子どもたちと楽しんでいる。地域の子が夏休みに、早寝・早起きでラジオ体操をし、おいしい朝ご飯を食べて、2学期を元気に迎えることを願い、取組を続けてきた。

夏休み中の土曜、日曜を除く毎朝30分間(6時30分から7時まで)と、毎週月曜日の2時間(1時間は勉強会、残りはおやつ・おもちゃ作り、ゲーム遊び等)に、子どもたちの居場所づくりを行っている。ラジオ体操は自治会館の駐車場で、押印後、玄関に座り紙芝居や絵本を見る。帰りにはキャンディをもらって帰る。かつて紙芝居を見てくれた子どもたちが結婚し、現在はその子どもたちが参加しており、保護者も手伝ってくれている。

### 4 子どもの居場所と若者自立支援 ～おせっかいおばさん奮闘記～

15:40~16:10

當山 洋子(沖縄県宜野湾市) 普天間やまがっこう 代表

子どもの居場所がなかった宜野湾市に、2010年3月放課後の居場所「普天間やまがっこう」を開始。不登校の中学生も利用が始まり、課題を抱える若者の居場所にもなる。児童・生徒の貧困の連鎖を断ち切り、生きる力と自立の力を目的にする。近隣企業の協力を得て就業支援へ結びつける。住居支援、保証人問題や様々な事情を考慮して応援くださる不動産と繋がり自立へ取り組んでいる。保護活動では若年妊婦専門の他シェルターとの連携、就労支援では市内企業との連携、そして、居住支援では不動産との連携をしている。さらに行政・学校・病院等の公的機関とも情報共有している。

# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／村上 兼一 長崎県教育庁生涯学習課県民学習班 指導主事  
桐 雅幸 島根県益田市教育委員会協働のひとづくり推進課 派遣社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

## 1 は・あ・と・ふ・る運動と『つながり』で目指す持続可能なふるさとづくり

13:35~14:05

佐々木義信(長崎県西海市) 西海市社会教育委員会 委員長

「は・あ・と・ふ・る運動」は西海市社会教育委員会の皆さんが考え出した市民運動である。社会教育と学校教育が一体になって標語作りから始めた。約80の応募作品の中から選ばれて標語が完成していった。社会教育と学校教育が一体になって進める「ふるさと作り教育」の活動内容について報告する。小学校PTAの実践発表と基調講演を組み合わせた「令和4年度西海市生涯学習のつどい・人権のつどい」が開かれ成功のうちに終わった。参会者から、「ふるさとに愛された子どもは、ふるさとを愛する人になる」という言葉に感銘したなど多くの感想をいただいた。

## 2 「地域の学びを豊かにし、地域と学校をつなぐ」 ～益田市発 社会教育コーディネーターの挑戦～

14:10~14:40

八川将也・辰己遥・東島今日香・石井七実(島根県益田市) 社会教育コーディネーター  
大峠 直也(島根県益田市) 益田市教育委員会協働のひとづくり推進課 派遣社会教育主事

平成28年度からコミュニティ・スクールを設置した小学校に教員免許を持った人材を社会教育コーディネーターとして委託配置している。教職員と協力し、子どもたちと関わり、公民館をカウンターパートナーにしながら、地域の学びを豊かにした活動を展開している。子どもたちが学校を飛び出して学ぶことができるフィールドを耕し、学校と地域をつなぎ、学校から子どもたちを地域のフィールドに誘っている。月1回の定例会の開催も組織運営も注目である。

ティータイム

14:40~15:05

## 3 「社会に開かれた教育課程」実現の取組 ～地域とともに取り組む教育課程～

15:05~15:35

佐藤 裕一(大分県別府市) 別府市立中部中学校 校長  
丸山野博紀(大分県別府市) 別府市立中部中学校 教務主任

学校教育目標の達成と学校課題の解決のために教職員・保護者・地域がゴールを共有し協働して取り組んだ活動である。学校運営協議会では委員が受身にならないよう意見交換を積極的に行い実践につなげた。

特に、地域の先生の授業であるドリムスクールを教育課程に位置づけ、地域を巻き込んで目標達成や課題解決を図った。また、学校課題である中1ギャップの解消に向けて不登校親の会を開催した。さらに、この協議会は生徒との意見交換を図り、地域自治体との交流も深めている。その成果が認められ令和4年度文部科学大臣賞を受賞することができた。

## 4 地域ぐるみで育てる「入来(いりき)小学校ジュニア歴史ガイド」の 実践と課題

15:40~16:10

東原 辰巳(鹿児島県薩摩川内市) 薩摩川内市教育委員会社会教育課社会教育指導員(元入来小学校校長)

小学生による校区の武家屋敷群の案内「ジュニア歴史ガイド」の取組で、「入来小学校PTA・清色地区コミュニティ協議会・入来麓重要伝統的建造物群保存地区保存会」等が中核になって地域ぐるみで育てた実践事例である。

校区の宝である歴史文化財を地域関係団体で支援・学習し、歴史ガイドとして成長する過程が見事にわかる。成功の秘訣は、①教育課程に位置付けたこと、②地域の専門(保存会等)と連携したこと等の工夫が見える。

# 第4会場●4F 大研修室

■司 会／工木圭吾郎 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育主事  
井田 律子 むなかた市民学習ネットワーク事務局

分科会の進め方

13:30~13:35

## 1 学童保育における「保教育」プログラムの成果と課題 ～「井関元氣塾」のその後～

13:35~14:05

上野 敦子(山口県山口市) 井関にここクラブ 主任支援員

子どもたちの「生きる力」を育むため、健全な成長・発達に必要な体験をプログラムにして、学童保育の「生活と遊び」の中で毎日実施している。結果、子ども集団の規律が整い、がんばる意欲が生まれている。跳び箱、けん玉、論語や短歌の暗唱など、子どもの成長ぶりは発表会で披露している。成長の姿を日々目にして支援員は指導が楽しくなった。学校施設を使えること、地域指導者の協力があることで多様な活動が可能である。教員と支援員の連携体制も整った。大人がプログラムの趣旨を共通理解し、ぶれないように心がけている。

## 2 リアルとオンラインの融合による交流活動の開発 ～ハイブリッドワークショップの進行術の試行～

14:10~14:40

緒方 清美(熊本県熊本市) 特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 理事長  
民長 博美(熊本県熊本市) 特定非営利活動法人 教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 事務局長

オンラインによる交流・講座の研究開発をした特定NPOの実践事例である。コロナ禍は、対面・交流を旨とする研修・講座等の実施を困難にした。そこで、オンラインによるツールを活用し、リアルとオンラインを融合した研修・交流等を実践試行して、その手法を開発している。

今後、超スマート社会(Society5.0)に対応し、「デジタル」と「リアル」を最適に組合せた教育や学習のあり方が問われている。その注目の実践事例である。

ティータイム

14:40~15:05

## 3 公民館と学校の連携による地域の活性化と地域を担う人材育成の手法 ～「SDGsセミナー」を通して～

15:05~15:35

山根 敬仁(岡山県倉敷市) 倉敷市玉島西公民館 館長

公民館と学校(中学校・高等学校等)の連携による地域活性化と地域を担う若者の人材育成を目指した「SDGsセミナー」である。校区の人権学習推進委員会の主催として取り組んでおり、その手法が注目ポイントである。

地域在住の講師を活用して「地域を知る」講座を開催し、その成果として高校生による「町案内」等を実施している。成果としては、若者と地域の人との交流が深まり、地域を深く知るにより地域に愛着を持つ人材が育ったということである。

## 4 笑いの学校の卒業生は今 ～またよばれる講師になっています～

15:40~16:10

矢野 大和(大分県大分市) 笑学校 世話人代表・おおいた観光特使

地元新聞社の文化教室「話し方教室」の講師を務めたが、5年間で生徒が100名になったので終了し、卒業生で組織を作り「笑学校」と命名。何人かが講師になりたいという事で「大分県の人権講師団」に登録した。登録者は20名で、公民館主事、主婦、会社員、議員さんなど多様である。

各人、上手に話したい、笑いを入れて話したい、講師になりたい等の希望を持っており、自分が指導を引き受ける事になった。言わば「笑いの生涯学習塾」である。教えたことは「難しくしゃべらない」「謙虚にしゃべれ」「時間を守れ」「紙を見るな」「笑いで人間関係を築き、耳に厳しい事も言え」「体験談を話せ」などである。近年では、大分県からの信用も得て、生徒が各種研修会などに良く派遣されている。今後は、人権のテーマのみではなく、あらゆるテーマで話せるようになって欲しい、と願っている。

1st day  
5.20 Sat.

## 第40回大会 特別報告

■時 間／ 16:30～17:00 ■会 場／2F 講堂

テーマ●「幼老共生の社会教育戦略」愛知県扶桑町の市民聴講制度と  
福岡県飯塚市の熟年者マナビ塾 ～義務教育学校の市民開放～

報告者：三浦清一郎

2nd day  
5.21 Sun.

## 第40回大会 特別企画

■時 間／ 9:00～11:30 ■会 場／2F 講堂

第1部：9：00～10：10

### 「教育こそ未来より先に動かなければならない」

登壇者・聞き手：月刊生涯学習通信『風の便り』編集長	三浦清一郎
登壇者：元飯塚市教育委員会教育長	森本 精造
九州共立大学名誉教授	古市 勝也
九州女子大学教授	大島 まな
聞き手：前放送大学副学長	菊川 律子

#### <登壇者・聞き手プロフィール>



●三浦清一郎 月刊生涯学習通信『風の便り』編集長

国立社会教育研修所、文部省、福岡教育大学、シラキューズ大学、九州女子大学などを経て、現在月刊生涯学習通信「風の便り」編集長。近年は執筆活動や研究論文の発表に注力し、著書・共著に「子どもに豊かな放課後を」、「明日の学童保育」、「国際結婚の社会学」、「詩歌自分史のすすめ」、「消滅自治体は都会の子が救う」、「隠居文化と戦え」（すべて、日本地域社会研究所）などがある。



●森本 精造 元飯塚市教育委員会教育長

福岡県教育庁社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長、飯塚市青少年教育施設サンビレッジ茜理事長を歴任。穂波町時代、全公立小学校に「子どもマナビ塾」、「熟年者マナビ塾」の導入、飯塚市では「いづか市民マナビネットワーク」（e-マナビ）など先駆的行政施策の開発を手掛けてきた。退職後は「学童と学校の連携」（学社連携）に奔走。



第2部：10：20～11：30

## 「生涯教育実践研究交流会 40年を振り返って」

登壇者：鳥取県教育委員会事務局社会教育課  
 島根県出雲市立灘分小学校  
 広島県海田町立海田西小学校  
 岡山県倉敷市立第四福田小学校  
 前（公財）山口県人づくり財団 県民学習部  
 NPO法人高知県生涯学習支援センター  
 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立大洲青少年交流の家  
 前 佐賀県立生涯学習センター（アバンセ）  
 長崎県社会教育支援 草社の会  
 CPDI代表  
 国立大学法人 大分大学  
 宮崎県諸塚村教育委員会  
 かごしま県民大学中央センター  
 一般社団法人まちづくりうらそえ（浦添市立森の子児童センター）

平野 靖博  
 原田 尚  
 吉岡 康行  
 東川 絵葉夫  
 赤田 博志  
 濱崎 博治  
 中尾 弘紹  
 関 寛  
 武次 幸三  
 三角 正彦  
 岡田 一久  
 竹内 孝夫  
 鵜木 孝夫  
 大城 喜江子

聞き手：九州女子大学

大島 まな



●古市 勝也 九州共立大学名誉教授

九州共立大学・九州女子大学・同短期大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学地域連携推進室長を経て現職。日本生涯教育学会生涯学習実践研究所福岡センター長、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表、第34回大会から本交流会の代表世話人を務める。



●大島 まな 九州女子大学教授、九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター所長

九州大学教育学部社会教育講座、九州女子短期大学等を経て現職。これまで、福岡県総合計画審議会委員、福岡県社会教育委員、北九州市社会教育委員、福岡県青少年問題協議会専門委員等を務める。共著に『子どもに豊かな放課後を』、『社会教育の核心』などがある。



●菊川 律子 前放送大学副学長

福岡県立図書館長や国立青少年機構理事等、福岡県や国で教育行政、特に生涯学習の仕事に携わる傍ら、長く中央教育審議会の審議に関わった。九州大学では理事として男女共同参画や教育社会連携を担当。放送大学では福岡学習センター所長勤務の後、コロナ禍の本部でセンターや連携業務、リカレント支援等を担当した。

# 第39回大会開催報告

●大会期日 2022(令和4)年5月21日(土)~22日(日)

●場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者  
司会者及び  
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
山口	3	2	6
広島	2	0	4
島根	3	0	12
鳥取	2	0	9
岡山	1	1	2
計	11	3	33

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
東京	0	0	6
大阪	0	0	4
千葉	0	0	1
神奈川	0	0	1
静岡	0	0	1
計	0	0	13

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	6	6	128
佐賀	2	2	7
熊本	3	2	6
大分	1	0	14
宮崎	1	0	6
長崎	2	1	13
鹿児島	1	1	5
沖縄	1	0	3
計	17	12	182

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
徳島	0	0	0
愛媛	1	1	1
高知	0	0	1
香川	0	0	0
計	1	1	2

	発表者数	司会者数	参加者数	総参加者数
総計	29	16	230	275

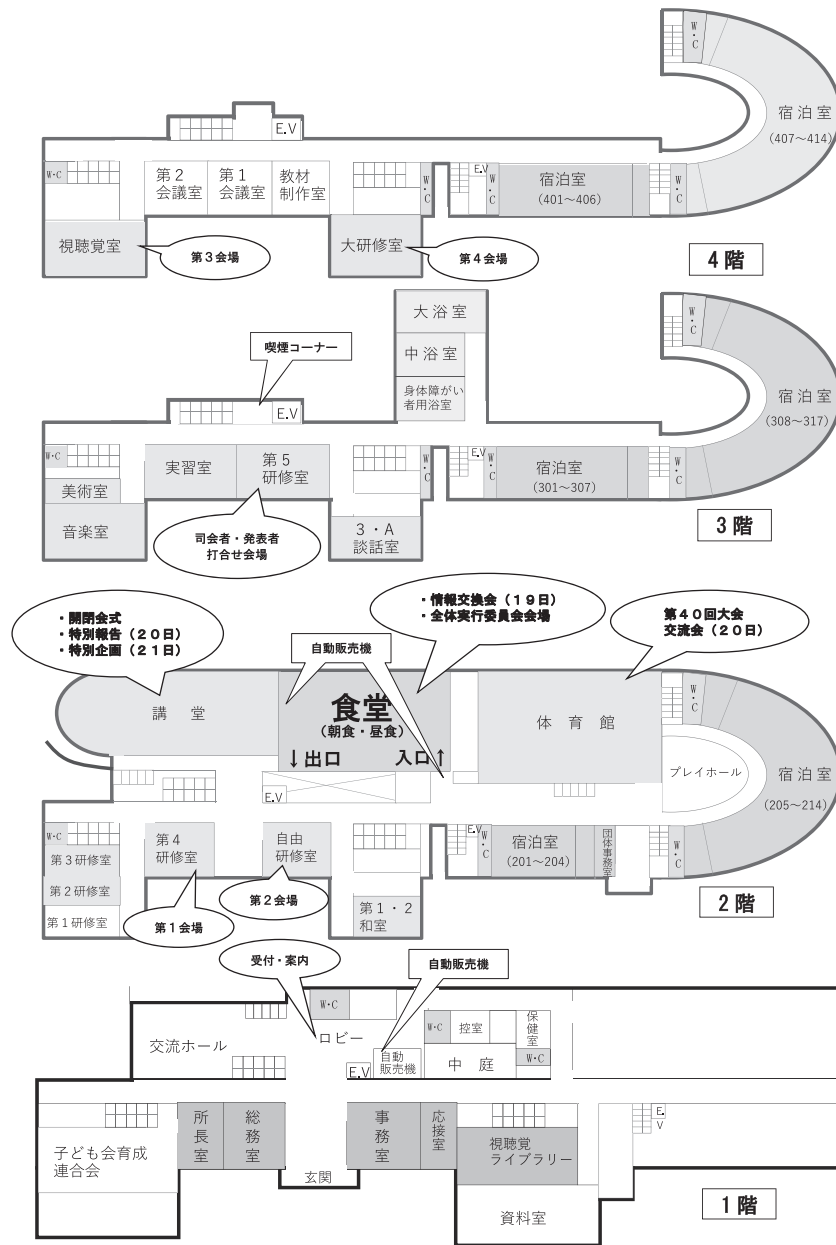
**特産品、稀少品ありがとうございました**  
第39回大会も皆様のご協力により、  
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名等	特産品名
1	古市 勝也	福岡県	九州共立大学	焼酎岡垣
2	古市 勝也	福岡県	九州共立大学	焼酎あらわざ
3	近藤 真紀	福岡県	教育庁筑豊教育事務所	赤ワイン
4	日高 公德	福岡県	福岡県教育センター	純米大吟醸「喜多屋」
5	平川 真一	福岡県	福岡県立社会教育総合センター	日本酒「沖ノ島」&あなごパイ
6	松井 和彦	福岡県	国立夜須高原少年自然の家	薩摩焼酎「三岳」
7	澤田 亮	福岡県	福岡県立社会教育総合センター	地球グミ
8	坂本 浩二	鳥取県	教育委員会事務局東部教育局	鳥取のらっきょ
9	森本 精造	福岡県	元飯塚市教育委員会	テトラエッグ
10	大城 喜江子	沖縄県	(社)まちづくりうらそえ(森の子児童センター)	黒糖各種(5個)
11	今井 博志	愛媛県	愛媛のおやし井戸端会議	ポロシャツ
12	鶴木 孝夫	鹿児島県	かごしま県民大学中央センター	食べる黒酢(ちよい辛)
13	鶴木 孝夫	鹿児島県	かごしま県民大学中央センター	食べる黒酢(ちよい辛)
14	赤田 博央	山口県	山口ひとづくり財団	利休まんじゅう
15	田中 垣治	鳥取県	鳥取県教育委員会西部教育局	牛骨ラーメン
16	河本 潤	岡山県	岡山県生涯学習センター	瀬戸内鯛めし
17	山田部 敏夫	山口県	下関市立豊北中学校	鶏卵せんべい
18	大島 まな	福岡県	九州女子大学	博多細麺・一蘭ラーメン(5食入り)
19	中野 大介	長崎県	教育庁生涯学習課	長崎ちゃんぽん・五島うどん

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名等	特産品名
20	田中 崇詞	鳥取県	米子市	白バラ牛乳ラウンドシャ・大風呂敷
21	田中 崇詞	鳥取県	米子市	二十世紀梨わらび餅・おとなのふりかけ(山陰限定)
22	篠原・真崎	福岡県	国立夜須高原青少年自然の家	越乃雪
23	杉原 潔	広島県		八朔ストレート
24	紫園 来未	福岡県	オフィスしおん	手作りマスクホルダー(ビーズなし)
25	紫園 来未	福岡県	オフィスしおん	手作りマスクホルダー(ビーズ付き)
26	上田 哲子	福岡県	副教育長	ふくや 明太ラスク・明太ツナ缶
27	市村 智子	福岡県	社会教育課	高島野十郎 ポストカードセット(県立美術館)
28	市村 智子	福岡県	社会教育課	高島野十郎一筆箋 クリアファイル2枚(福岡県立美術館)
29	社会教育課参加者一同	福岡県	社会教育課	銘酒セット
30	濱崎 博志	高知県	NPO法人高知県生涯学習支援センター	ミレーの枕
31	濱崎 博志	高知県	NPO法人高知県生涯学習支援センター	新基石茶
32	中川 薫	広島県	生涯学習コーディネーター会	三好ワイン・乳団子
33	武原 智明	広島県	生涯学習センター	元祖もみじまんじゅう
34	亀尾 勇志	鳥取県	南部町新青年団	鳥取県南部町新青年団手作りもち米&給食レシピbook
35	参加者一同	熊本県	社会教育課	黒糖ドーナツ棒
36	緒方 友希	熊本県	社会教育課	熊本ごはんがおいしいセット
37	東川 絵葉	岡山県	倉敷市立第四福田小学校	特選おつまみセレクト
38	関 弘紹	佐賀県	生涯学習センター	清酒 能古見
39	穴戸 史歩	鳥取県	北栄町生涯学習課	ねばりっこ
40	穴戸 史歩	鳥取県	北栄町生涯学習課	コナングッズセット
41	紫園 来未	福岡県	オフィスしおん	手作りマスクホルダー(子供用)
42	鈴木 眞理	東京都	青山学院大学参加者一同	青学カレー(5食セット)
43	川田 貴之	東京都	国立社会教育実践研究センター	上野パンダトートバッグ
44	芝尾 文徳	大分県	日出町	大分むぎ焼酎二階堂
45	飯野 小巻	宮崎県	延岡市社会教育課	マキシマム とむら焼き肉のタレ
46	飯野 小巻	宮崎県	延岡市社会教育課	ちりめんアヒージョ
47	渡辺 いづみ	福岡県	北九州市西門司市民センター	鰯・鯖めか炊きセット
48	内藤 妙子	福岡県	大川市教育長	いも焼酎
49	今西 幸藏	大阪府	高野山大学	風月堂ゴーグル
50	岡田 正彦	大分県	大分大学	華鷹純米吟醸大分三井
51	市川 元子	長崎県	佐世保市教育委員会	カステラ
52	吉岡 康行	広島県	海田町立海田西小学校	カーブ瀬戸内レモンつけ麺
53	松尾 修	長崎県	社会教育支援「草社の会」	大吟醸長崎美人
54	白木 市康	福岡県	稲築志耕館高校	純米吟醸酒「博多じまん」
55	久保田 真巨	長崎県	佐世保市江迎地区コミュニティセンター	ウィリアム・アダムス(梅酒バラ)・本陣生辛口
56	田中 明子	大阪府	大阪狭山市教育委員会	コーヒー
57	大峠 直也	島根県	益田市教育委員会	鶏卵饅頭・日本酒高津川
58	矢野邦彦・太田学・福山美恵子	福岡県	久留米市立大善寺小学校	久留米黒棒セット
59	久保田 啓子・上野 敦子	山口県	長門教育委員会・井関にこにこクラブ	ふぐせんべい・ブチクーヘン
60	中村 隆	福岡県	かすや子育て研究会・かぶとむし	ブロッポリー

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、御容赦下さいませようお願いいたします。

# 会場案内図



## 「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

ぜひ一度  
ご覧ください！



## 福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2  
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029